

令和4年3月 スクールカウンセラー 中野隆治



「もっと高く」



短いですが、こんな好きな詩があります。

落ちてきたら

今度は

もっと高く

もっともっと高く

何度でも打ち上げよう

美しい

願い事のように

くろ ださぶろう  
(黒田三郎「紙風船」)

青々とした空に、一個の、あるいは無数の風船が上がる風景を想像してほしいと思います。その風船を打ち上げた人達の願いを込めて、空高く上がって行く風船。当然、風船ですから、いつかは落下してくるでしょう。しかし、作者は、何度でも、今度はより高く打ち上げて行こうと言っているのです。風船に込められた願いの強さがよく分かるような気がします。

人間には目標があつて、誰もがそれぞれの目標めざして生きていると思います。その目標は小さい頃から、夢や願いの形で形作られ、年とともに、その生活環境や、時代や周囲との関わり、あるいは学びなどの影響から、微妙に変化して行くことが考えられます。そんな時、いつの間にか、空高く打ち上げられた風船が、地上に落下してしまっているという現状に気づくことがあるかもしれません。そんな時に、かつて打ち上げられた風船の高く打ちあがる情景を想像してほしいのです。打ち上げ場所や風船の色は変わっても、常に風船を打ち上げ続ける心がけを忘れてほしくないと思います。

風船を、一つの解釈として、自分自身の未来に関わる何かではないかと考えると、その風船を打ち上げることを忘れずにいる人こそが、人生での自分だけのものを持つ人であるかもしれません。気がつくと、あの空高く打ち上げた風船が、いつの間にか、自分の てのひら 掌に収まっているかもしれないのです。もちろん、ちゃんとした、中身のある、確固とした自分自身のものとして。

おり折しも、春、3月。くつきりと晴れ上がる空に、自分のその時の願いを込めた風船を打ち上げようではありませんか。高く、もっと高く。